

3・11から 日本を問う

日本政府がぐずぐずして
いる間に、世界の国々は脱
原発へ舵を切り始めたので
はないでしょうか。

私が以前取材したスウェ
ーデンでは、持続可能な社
会に向か、地域のエネルギー
資源を活用する取り組み
が進んでいます。電力市場
を解放していく、市民はエ
コマークのついた自然エネ
ルギーの電気を選ぶことが
できるのです。

それは、今の日本のように送電線が独占されていては無理ですよね。けれど私たちには消費者として電気を選ぶ権利はあるはずであります。原発の電気を使えば、使用済み核燃料という放射性物質がどんどんたまっていく。自分たちの暮らしの延長線上に、核や放射能汚染があることを、国民全員が意識し、どうしたら安心して暮らせるのか考えないといけないと想います。

地域分散型の

社会が大事に

昨年完成させた記録映画「ミツバチの羽音と地域の回転」では、山口県の上関原発に反対する祝島の暮

電気選ぶ権利 国民に

映画監督 鎌仲 ひとみさん



佐藤光信撮影

らしと、スウェーデンのエネルギー政策を追いまし

た。

原発計画を進める中国電力は、祝島の人たちに向かって「第一次産業だけではこの先やっていけない。原発があれば雇用を増やせます」と言っています。

けれど島民は、自分たちの足元にある資源を守り生かしながら、反対運動を30近く続け、いまだ原発は建つていません。

食料は海外から買ってくればいい。そうやって地域に根差し農業や漁業で食べていくことを、何十年にもわたって否定し続けてきたのは自民党や経済界です。それでの地域にある資源や財産を軽視してきました

は、もう時代遅れです。自分たちの暮らしを守るために原発に反対して、た

ていいないと、思いこませた。そして、そういう価値観を受け入れなければ生き

でもそれは違います。地域が自分たちのことを自分で決められる権利を大事にしていく地域分散型の社会を作っていくことが、これから大事になってきます。国策だから、地方はそれに従え。そんなやり方

ないでしょうか。

原発から脱却 私たちの意志で

私が原発問題の記録映画を作るようになったのは、ついでいたいですか?と聞い

たなら、日本の大多数の人

は、持続可能な自然エネルギーを選択するだろうと私は思います。

今なお政府や東京電力は、原発は安全に運用すれば大丈夫だというメッセージを出し続けていますが、

そうした情報をうのみにせず、自分で考えることが大切です。でなければ、私たちの安全な暮らしは守れませんから。

それに俯瞰して見れば、彼らの運動は地球の環境を守っていて、私たち皆にとって必要なことでもあるのです。こうしたミクロとマクロの二つの視点で物事を考えていくことも大事では

す。

けれど、福島第一原発で事故が起きました。何のために映画を作ってきたのだろうと思いました。あ

る部分はもう手遅れです。

文化 学問

かまなか・ひとみ 「ヒバクシャー世界の終わりに」
最新作「ミツバチの羽音と地球の回転」は東京・渋谷・ユーロスペース
ほかで上映中。その他の上映情報は 03(3334-1) 28863 グループ現代。